

農商工労働常任委員会及び  
予算特別委員会農商工労働分科会  
議事次第

令和6年6月21日(金)  
午後1時30分～  
於：第7委員会室

1 開 会

2 報告事項

3 付託議案及び審査依頼議案（質疑終結まで）

4 閉 会

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿  
 (令和6年6月府議会定例会)  
 (6月21日)

【商工労働観光部】	
商工労働観光部長	上 林 秀 行
商工労働観光部企画調整理事兼副部長 (労働担当)	河 島 幸 一
商工労働観光部観光政策監兼副部長	野 口 礼 子
商工労働観光部副部長 (総括担当)	玉 木 利 忠
商工労働観光部理事 (文化学術研究都市推進課長事務取扱)	足 利 健 淳
観光室長	西 田 剛
産業労働総務課長	芝 田 雅 貴
産業労働総務課参事	安 藤 成 司
産業立地課長	森 本 耕 次
人材育成課長	浅 利 賢 司

【農林水産部】	
農林水産部長	小 瀬 康 行
農林水産部副部長	荻 安 彦
農林水産部技監	青 山 義 久
農政課長	福 田 純 一
農政課参事	高 橋 英 樹
農政課参事	八 谷 純 一
流通・ブランド戦略課長	加 茂 雅 紀
流通・ブランド戦略課参事	藤 田 信 也

( 計 18 名 )

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿  
(令和6年6月府議会定例会)  
(6月24日)

【付託議案(討論・採決)・審査依頼議案(適否確認)】

【商工労働観光部】	
商工労働観光部長	上 林 秀 行
商工労働観光部観光政策監兼副部長	野 口 礼 子
商工労働観光部副部長 (総括担当)	玉 木 利 忠
商工労働観光部理事 (文化学術研究都市推進課長事務取扱)	足 利 健 淳
観光室長	西 田 剛
産業労働総務課長	芝 田 雅 貴
産業労働総務課参事	安 藤 成 司
産業立地課長	森 本 耕 次

( 計 8 名 )

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿  
(令和6年6月府議会定例会)  
(6月24日)

【所管事項(農林水産部)】

【農林水産部】	
農林水産部長	小 瀬 康 行
農林水産部副部長	荻 安 彦
農林水産部技監	青 山 義 久
農政課長	福 田 純 一
農政課参事	高 橋 英 樹
農政課参事	八 谷 純 一
農村振興課長	今 中 豊
農村振興課参事	野 田 敦 司
農村振興課参事	藤 井 伊
経営支援・担い手育成課長	小 塩 佳 市
経営支援・担い手育成課参事	山 川 彰 宏
流通・ブランド戦略課長	加 茂 雅 紀
流通・ブランド戦略課参事	藤 田 信 也
農産課長	瀬 戸 谷 隆 治
農産課参事	浅 野 智 士
畜産課長	黒 田 洋 二 郎
水産課長	川 原 崎 尚 志
林業振興課長	塚 脇 健
林業振興課参事	橋 本 泰 成
森の保全推進課長	柴 田 繁

( 計 20 名 )

農商工労働常任委員会 出席要求理事者名簿  
 (令和6年6月府議会定例会)  
 (6月25日)

【商工労働観光部】	
商工労働観光部長	上 林 秀 行
商工労働観光部企画調整理事兼副部長 (労働担当)	河 島 幸 一
商工労働観光部観光政策監兼副部長	野 口 礼 子
商工労働観光部副部長 (総括担当)	玉 木 利 忠
商工労働観光部副部長 (産業創造担当)	山 本 太 郎
商工労働観光部理事 (情報基盤担当)	浅 沼 真 也
商工労働観光部理事 (文化学術研究都市推進課長事務取扱)	足 利 健 淳
労働政策室長	義 本 知 史
観光室長	西 田 剛
産業労働総務課長	芝 田 雅 貴
産業労働総務課参事	安 藤 成 司
中小企業総合支援課長	田 村 弘 之
産業振興課長	安 達 雅 浩
染織・工芸課長	草 分 隆 司
産業立地課長	森 本 耕 次
経済交流課長	澤 田 美 香
雇用推進課長	湯 川 卓 宏
人材育成課長	浅 利 賢 司

【商工労働観光部・建設交通部】	
商工労働観光部・建設交通部港湾局長	苔 口 聖 史

( 計 19 名 )

# 令和6年6月府議会定例会 農商工労働常任委員会 報告事項

(商工労働観光部)

- 「京都府立高等技術専門校条例」の一部改正について

(農林水産部)

- 第7次京都府食の安心・安全行動計画の策定について
- 試験研究で開発された主な成果について

令和6年6月府議会定例会  
農商工労働常任委員会  
報告事項

商工労働観光部

## 報 告 事 項 目 次

- 1 「京都府立高等技術専門校条例」の一部改正について・・・・・・・・・・資料 1



## 「京都府立高等技術専門校条例」の一部改正について

令和 6 年 6 月  
商工労働観光部

### 1 障害者訓練見直しの背景等

#### (1) 現行体制

通学制 2 校：京都障害者高等技術専門校、福知山高等技術専門校

全寮制 1 校：城陽障害者高等技術専門校

#### (2) 見直しの背景

##### ・訓練強化の必要性

障害者の方々が活躍できる共生社会づくりに向け、また、障害者の法定雇用率引き上げに伴う企業ニーズの高まりなど、個々の特性に応じた能力を伸ばす職業訓練が求められていること

##### ・訓練手法をめぐる環境の変化

「生活訓練」を行う民間福祉施設の増加に伴い、寮生活を通じた「生活訓練」と、「職業訓練」を合わせて実施する施設に対するニーズが減少していること

#### (3) 有識者意見

有識者で構成する京都府産業人材育成委員会で在り方について検討を重ねたところ、「障害者高等技術専門校は職業訓練に特化していくことが妥当」との意見

### 2 見直しの概要（案）（令和 8 年度実施）

知的障害者を対象とした京都障害者校「総合実務科」と城陽障害者校「生産実務科」を統合して、京都障害者校に一本化し、本人の適性に合わせたきめ細かい訓練を実施

→ 城陽障害者校は閉校（令和 7 年度入校生から募集を停止）

### 3 今後の予定

令和 6 年 6 月議会 農商工労働常任委員会に概要報告

12月議会 農商工労働常任委員会に骨子案を報告

7 年 2 月議会 条例改正案を上程

令和6年6月府議会定例会

農商工労働常任委員会

報 告 事 項

農 林 水 産 部

## 報 告 事 項 目 次

- 1 第7次京都府食の安心・安全行動計画の策定について…………… 資料1
- 2 試験研究で開発された主な成果について…………… 資料2

## 第7次京都府食の安心・安全行動計画の策定について

令和6年6月  
農林水産部

京都府では、食の安心・安全の確保に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、京都府食の安心・安全推進条例(平成17年京都府条例第53号)に基づく行動計画を定めており、今般、第7次行動計画を下記のとおり策定する予定です。

### 記

#### 1 第6次行動計画(R4～R6)の取組状況と課題

##### (1) 取組状況

食品衛生法の改正やコロナ禍で変化した生活様式への対応が求められる中、食の安全性の確保に向け、行政、食品等事業者、生産者が連携し、全30項目の具体的な取組を展開。

令和5年度の目標達成状況:27項目100%以上を達成、3項目80%以上を達成(裏面参照)

##### (2) 今後の課題

###### ・多様化する流通、提供形態への対応

外食や中食利用の増加を踏まえ、製造・加工段階での食中毒防止措置の監視等が必要

###### ・事業者との協働による食品の信頼確保

食品の健康被害や産地表示の不正事案等を踏まえ、消費者の信頼確保に自ら取り組む食品等事業者、生産者の育成・研修が必要

###### ・消費者ニーズに応じた正確な情報の提供

テイクアウトや宅配食材の消費期限や保存方法、アレルギー、宗教的配慮など、消費者の多様なニーズに合わせた正確で効果的な情報発信が必要

#### 2 第7次行動計画(R7～R9)における主な施策の方向性

府総合計画で掲げた食文化を生かした産業・観光振興や文化交流の根幹となる食の安心・安全を確保するために、3つの柱を推進

##### 【柱1】生産から消費に至る食品の安全性の確保

- ・加熱不十分な食肉等による食中毒の防止に向け、加工段階の温度管理等を監視・指導
- ・府内で製造・販売される食品の安全性を確認するため、残留農薬や細菌等を検査

##### 【柱2】食品関連事業者の自主的な取組の促進

- ・新たな食品表示やHACCP制度化に対応し、安全な食品を提供する食品関連事業者の育成
- ・フードテックを活用した環境負荷低減や機能性など高付加価値化食品の生産や、適正な生産流通管理に取り組む生産者、食品等事業者の育成

##### 【柱3】消費者への情報提供の充実と相互理解

- ・幅広い世代に対し、SNSや動画サイトなどのデジタル技術を活用して、多様な生活様式に沿った食の安心・安全の理解促進につながる正確で分かりやすい情報を発信

#### 3 計画期間:令和7～9年度(3年間)

#### 4 今後のスケジュール

9月 常任委員会 骨子案報告、パブリックコメント実施

12月 定例会 最終案を議案提出

<参考>

第6次京都府食の安心・安全行動の実施状況（主な項目）

主 な 項 目	指 標	現状値 (R 2)	目標値 (R 5)	実績値 (R 5)	計画比 (R 5)
<b>柱1 食の安全性確保に向けた行政による監視・検査体制の確保</b> <目指す姿>食中毒や食物アレルギーによる健康被害、食品の規格基準違反、食品表示違反などが発生ゼロになることを目指す					
養鶏農場における高病原性鳥インフルエンザ侵入監視のためのウイルス学的検査	検査率 (%/年)	100	100	100	100%
二枚貝類の主要養殖海域における定期的な貝毒発生状況調査	調査数 (回/年)	48	48	54	113%
食品表示における科学的検査	検査数 (検体/年)	40	40	40	100%
新たに許可を受けた飲食店に対しテイクアウトやデリバリーを行う際に食中毒を発生させないための監視指導	指導率 (%/年)	100	100	100	100%
(他、8項目)					
<b>柱2 食を取り巻く変化に対応する食品関連事業者等の自主的な取組の促進</b> <目指す姿>安心・安全な食品を提供する生産者、事業者等を育成し、食品による健康被害の防止、安心・安全な食品の安定供給を目指す					
農薬講習会の開催	参加人数 (人/年)	261	290	280	97%
HACCPの定着に向けた指導と食品衛生責任者の研修会開催	開催数 (回/年)	20	30	25	83%
食品関連事業者向け新たな食品表示制度の普及啓発	普及啓発数 (回/年)	5	5	6	120%
食物アレルギーのある児童・生徒への個別の取組プランの作成率の向上	プラン作成率 (%)	88	99	97	98%
(他、9項目)					
<b>柱3 府民の食に関する信頼感向上と選択力向上に向けた正確な情報の提供</b> <目指す姿>食の安心・安全に関する消費者、事業者、行政の相互理解の促進と府民の食の安心・安全に関する学習環境の充実を目指す					
食の安心・安全に関するオンライン等を活用したリスクコミュニケーション等の開催	参加者数 (人/年)	429	500	596	119%
学生等によるきょうと食の安心・安全ヤングサポーターの養成	延登録者数 (人)	56	145	206	142%
食の府民大学の動画講座の充実・利用拡大	総動画再生回数 (回)	2万	5万	7.25万	145%
SNS等様々な媒体を活用した適切な食情報の発信	発信数 (回/年)	24	24	24	100%
(他、1項目)					

全30項目の目標のうち、27項目が100%以上を達成し、残りの3項目も80%以上を達成

## 試験研究で開発された主な成果 (令和5年度)

- 1 既存品種より栽培しやすく収量が多い京都オリジナルの酒造用水稲品種を育成  
〈生物資源研究センター〉
- 2 エビイモ栽培の機械化で土入れ作業時間を大幅に削減  
〈農林センター（栽培技術開発部）〉
- 3 久美浜湾での二枚貝養殖における冬季の大量死の原因を解明  
〈海洋センター〉
- 4 非熟練者でも高品質なてん茶製造ができる装置とアプリを開発  
〈農林センター茶業研究所(宇治茶部)〉
- 5 画像解析により手軽に体重を推定できるシステムを開発  
〈畜産センター〉

令和6年6月

農林水産技術センター

# 既存品種「祝」より栽培しやすく収量が多い 京都オリジナルの酒造用水稲品種を開発

既存品種「祝」より草丈が短くて栽培しやすく、収量が多く、酒造適性の高い  
京都府独自の酒造用水稲品種「祝2号」を開発しました。

背景  
・既存品種は倒れやすいため栽培しづらく、収量が少ないため、生産者から改善の要望あり  
・酒造メーカーからは生産量の安定化が求められている

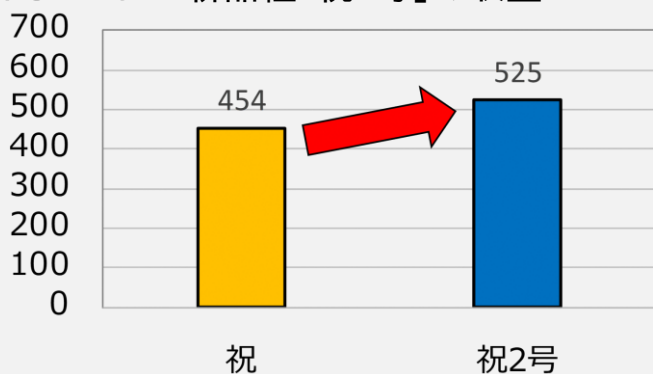
課題等  
・栽培しやすく、安定的に収穫が確保でき、酒造適性の高い品種開発が必要

## ●新品種の特徴

① 収量が16%向上(既存品種比較)

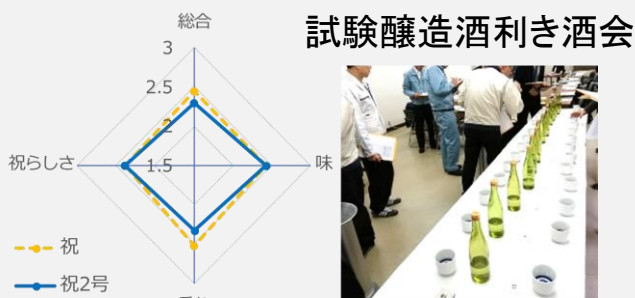
② 草丈が短く、倒伏しにくい

(kg/10a) 新品種「祝2号」の収量



③ 高い酒質評価

④ 新品種に適した栽培方法の確立



(図中の数値は小さいほど高評価)

### 栽培管理のポイント

- ・田植期 5月中～下旬
- ・株間 16～18cm
- ・施肥量 窒素6.5kg～7.5kg/10a
- ・水管理 強い中干しと早期落水を行わない

### 研究成果

- ・①収量が多い、②草丈が短く倒れにくい、③酒造適性が高い、新品種を開発しました。
- ・16%の収量向上が見込めます。

### 今後の展開

- ・本品種は令和6年に品種登録し、同年から全面切替予定です。  
(面積はR5:121ha→R6:131haに拡大)
- ・栽培こよみにより、生産者へいち早く新品種に適した栽培方法の普及・定着を図ります。

# エビイモ栽培の機械化で土入れ作業時間を大幅に削減

エビイモの管理作業を機械化することにより、収量は従来の水準を維持しつつ、土入れ作業の時間を90%削減できました。

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場で高い評価を受けるエビイモは、府内各産地で栽培面積の拡大意向</li> <li>重労働で手間がかかる土入れ作業が、面積拡大を阻む要因</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>株元に土を高く寄せる土入れ作業を機械化し、省力栽培体系を構築することが必要</li> </ul>

## 従来

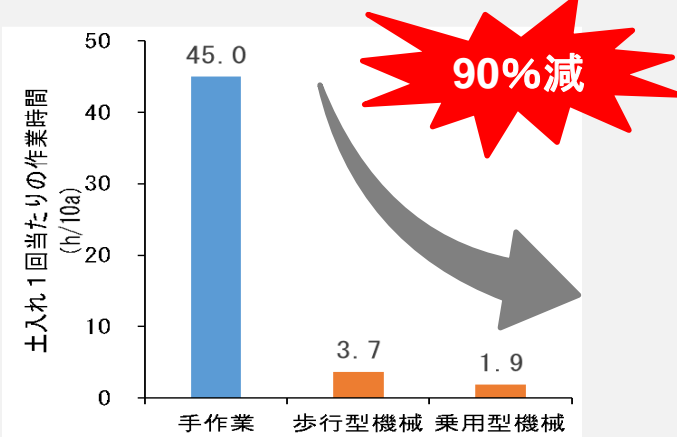


## 機械化

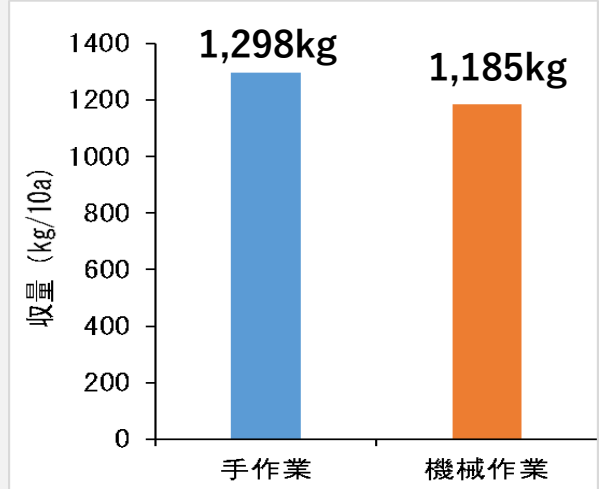


※土をより高く飛ばす機械を選定

### ①土入れの作業時間が大幅減



### ②収量は同等



手作業の場合、栽培面積は5a/戸程度が限界



機械化で最大**50a/戸**まで拡大可能

機械による土入れでも手作業と同等の収量を維持

#### 研究成果

土入れ作業の機械化により、土入れ作業にかかる時間が手作業と比較して90%短縮され、大幅な栽培面積の拡大が可能になりました。

#### 今後の展開

機械利用による栽培体系の普及により、一戸あたりの規模を拡大し、府内の栽培面積20%増を目指します。



# 久美浜湾での二枚貝養殖における冬季の大量死の原因を解明

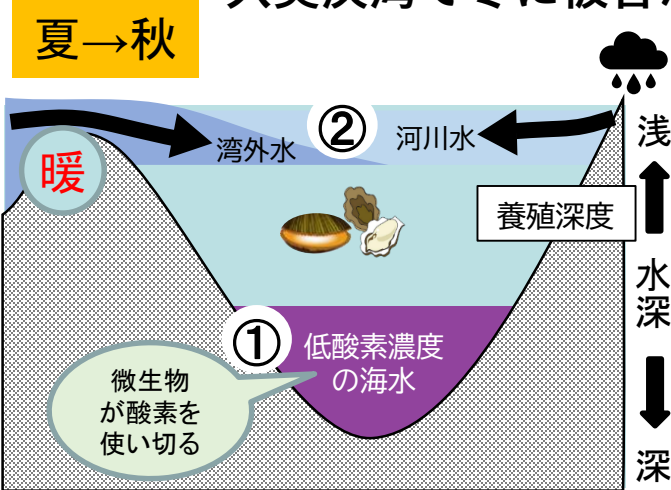
二枚貝の大量死の原因である低酸素濃度の海水の動きのメカニズムを全国で初めて解明しました。

(令和5年度全国水試場長会会長賞と水産海洋学会賞をW受賞)

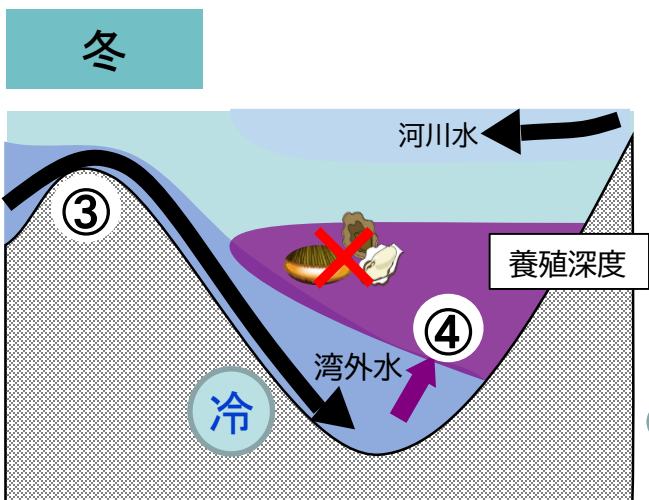
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬季の久美浜湾で、丹後トリガイ等の養殖二枚貝の大量死が度々発生し、大きなダメージ</li> <li>・ 全国的に同様の被害の例はなく、詳細な原因は不明</li> </ul>
----	---

課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被害発生に至るメカニズムの解明が必要</li> <li>・ 二枚貝養殖場だけではなく、久美浜湾全体の海洋環境の把握が不可欠</li> </ul>
-----	---

## 久美浜湾で冬に被害が発生するメカニズム



- ① 夏の微生物の活動により酸素が消費され、低酸素濃度の海水が海底付近に発生
- ② 暖かい海水と低塩分の河川水は、表面にとどまるため、低酸素状態の海水が底に溜まったまま  
※久美浜湾では、秋以降の降水量が多く、河川水の影響を受けやすい



- ③ 日本海からの冷たい湾外水が湾内に進入
- ④ 滞留していた低酸素濃度の海水が養殖深度まで押し上げられる

二枚貝の大量死

全国で初めてメカニズムを解明

対応

養殖する水深を調整することで、被害を防止

### 研究成果

・ 夏から秋に発生する海底の低酸素濃度の海水が冬季に二枚貝の養殖深度まで上昇することにより大量死を引き起こすメカニズムを解明しました。

### 今後の展開

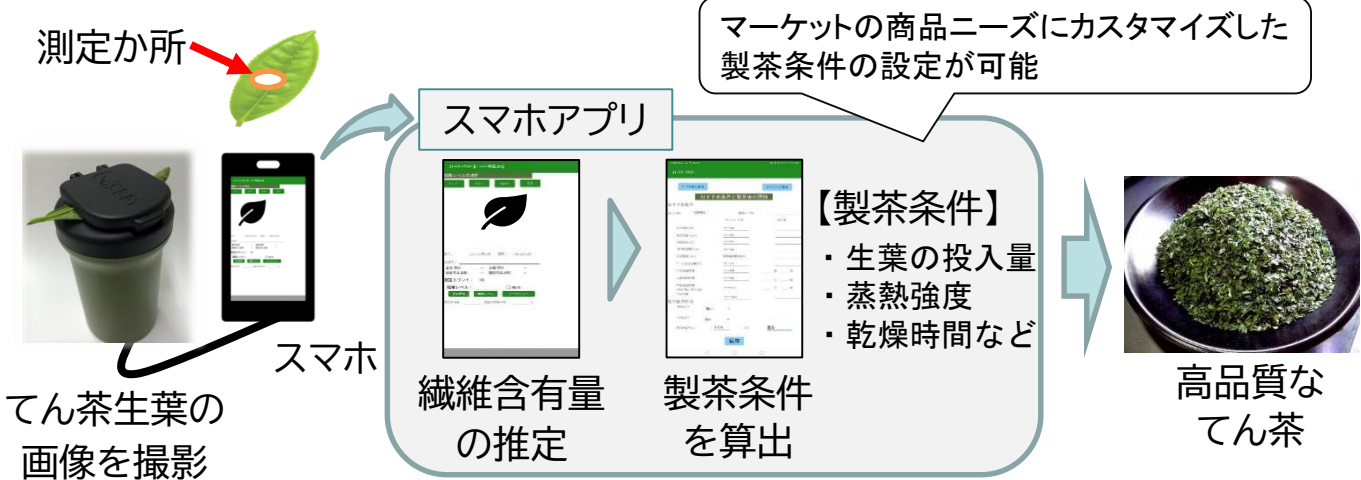
- ・ 酸素濃度や海水温等の継続的なモニタリングにより、低酸素濃度の海水の上昇を予測し、事前に養殖業者に注意喚起を行うことで、二枚貝の被害軽減に努めます。
- ・ 将来的には、生育環境の自動観測装置による監視と養殖貝の自動昇降装置を連動させたシステムを開発し、丹後トリガイやマガキの生存率向上につなげます。

# 非熟練者でも高品質なてん茶製造ができる装置とアプリを開発

非熟練者でも熟練者並みの高品質なてん茶製造ができるように、てん茶生葉の繊維含有量を推定し、スマホで製茶条件を算出する装置とアプリを開発しました。

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てん茶の製造条件は生葉の手触りで判断し設定するため、熟練者である経営者が担当</li> <li>・製茶期は、経営者が茶園での摘採作業も担うため、工場作業との両立は負担が大きい</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験の浅い従業員でも、生葉の状態を把握し、製造条件を設定できる技術が必要</li> </ul>

## ●開発した装置とアプリの概要



※本技術は機械摘み・棚被覆のてん茶に対応しています。

## ●導入効果(想定)

現状	装置とアプリの導入後	効果
熟練者が手触りにより葉の硬さを判断し、製茶条件を設定	装置により葉の繊維含有量を推定し、アプリにより製茶条件を算出 ▼ 非熟練者でも、生葉の状態に応じた製茶条件の設定が可能に！	熟練者が収穫に専念し、1日の処理量が増加 ▼ 1.25haの規模拡大 ▼ 1,758千円の所得増加

研究成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てん茶生葉の繊維含有量を簡易に推定できる小型器械を開発しました。</li> <li>・推定した繊維含有量から、製茶条件を算出する専用アプリを開発しました。</li> </ul>
------	--

今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品化に向け、府内の機械摘採てん茶産地で実証し、普及を図ります。</li> <li>・経営者が収穫に専念できるようにすることで、規模拡大と所得増加へ繋がります。</li> </ul>
-------	---

本研究の一部は共栄製茶株式会社による企業版ふるさと納税の支援により実施しました。

# 画像解析により簡易に体重を推定できるシステムを開発

**黒毛和種肥育牛の飼養管理に重要な体重を手軽に推定し、個体ごとの経時的な発育を把握できるシステムを開発しました。**

背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒毛和種の飼養管理を適切行うためには、個体ごとの体重を把握することが重要</li> <li>・体重計での計測は、コストと多大な労力を要する上、危険を伴い、牛のストレスにもなるといった問題があるため、肥育農家の多くは目測で体重を推測し、発育や健康状態を確認している</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安価で労力がかからず、牛のストレスも軽減できる体重把握の方法が必要</li> </ul>

## 開発した肥育牛体重推定システム

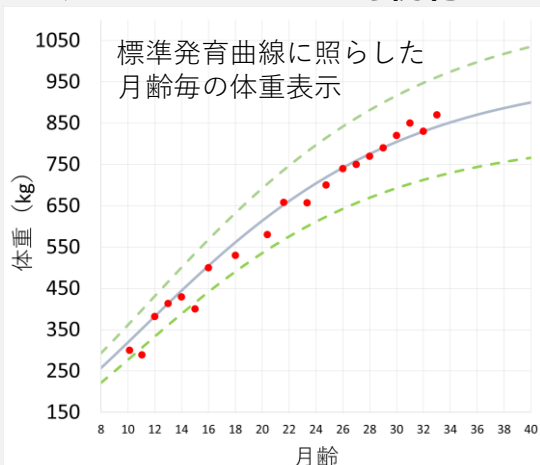
### ステップ1 撮影

パソコンをモニタリングしながら撮影



市販の資材を組み合わせて安価に開発

### ステップ3 グラフで可視化



#### 研究成果

- ・安価に、少ない労力で、安全かつ牛にも負担が少なくてすむ体重推定システムを開発しました。
- ・経時的な体重推定が可能となり、個体ごとに発育や健康状態の把握が可能になります。

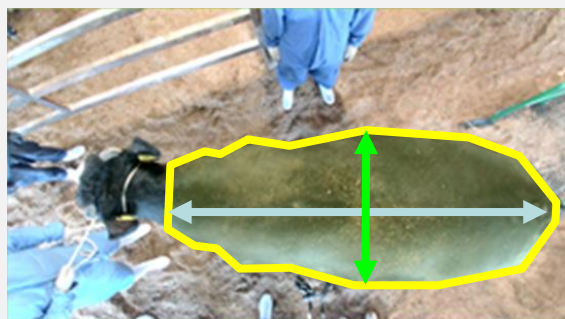
#### 今後の展開

- ・肥育農家で検証して機器やシステムの改良につなげ、府内の肥育農家への普及を目指します。

本研究は山形大学、京都産業大学、マクセルフロンティア株式会社との共同研究です。

### ステップ2 画像解析

体長と腹幅から体重を推定



抽出変数

- ・面積
- ・体長
- ・腹幅

### ●導入効果(試算)

#### ①適正体重での出荷頭数の増

肥育牛の適正体重未満での出荷を未然に防止

約18.4万円増/頭

#### ②発育遅延牛の早期発見

約24万円の損失回避/頭

農商工労働常任委員会議案付託表

議案番号	件名
10	京都府雇用の安定・創出と地域経済の活性化を図るための企業等の立地促進に関する条例一部改正の件

予算特別委員会農商工労働分科会  
議案審査依頼表

議案番号	件名
1	令和6年度京都府一般会計補正予算（第1号） 歳出中 第7款 商工費

令和6年6月府議会定例会

農商工労働常任委員会

付託議案関係資料

商工労働観光部

## 付託議案関係資料目次

- 1 京都府雇用の安定・創出と地域経済の活性化を図るための企業等の立地促進に関する  
条例一部改正の件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 第10号議案

### 京都府雇用の安定・創出と地域経済の活性化を図るための企業等の立地促進に関する条例一部改正の件

#### 1 改正の理由

- (1) 国において、平成27年度に「地域再生法（平成17年法律第24号）」を改正し、地方拠点強化税制（東京から地方への本社機能移転等に対する法人税軽減制度）を創設
- (2) これを受けて、京都府では、同年度に「京都府雇用の安定・創出と地域経済の活性化を図るための企業等の立地促進に関する条例（平成13年京都府条例第40号）」を改正し、他府県から京都府への本社機能移転等に対する不動産取得税軽減制度を創設
- (3) 本年4月19日に「地域再生法の一部を改正する法律」が公布され、対象施設が追加されたため、立地条例で定める対象施設についても、同様の見直しを行うもの

#### 2 改正案の内容

不動産取得税軽減の対象に、特定業務施設等の新設に併せて整備される児童福祉施設を追加することとした。（第9条関係）

#### 3 施行期日

公布の日



令和6年6月府議会定例会

説明資料  
(審査依頼議案)

予算特別委員会 農商工労働分科会

商工労働観光部

# 説明資料目次

第1号議案	令和6年度京都府一般会計補正予算（第1号）中、所管事項 . . . 1
-------	-------------------------------------

# 第1号議案 令和6年度京都府一般会計補正予算（第1号）

## ◇商工労働観光部所管予算の概要

（単位：千円）

款	現計予算額	今回補正額	計
労働費	4,076,692	0	4,076,692
商工費	161,483,780	60,000	161,543,780
計	165,560,472	60,000	165,620,472

## ◇令和6年度6月補正予算（案）主要事項

（単位：千円）

事項	予算額	財源内訳		事業概要
		特定	一般	
けいはんな次世代技術基盤整備事業費	50,000	起 50,000		けいはんな万博や万博終了後における、ロボットの遠隔操作や自動運転等の持続可能な実証環境の構築に向けて、通信環境や安全性を向上させる設備を整備
府市連携周遊観光促進事業費	10,000	—	10,000	秋の観光シーズンに向けて府市連携による周遊観光を促進